

いざ放生祭

福井県無形民俗文化財
八幡神社祭礼

若狭おばま

山車や大太鼓、神楽、獅子の四種類の演し物が町中を巡る
三百八十有余年の歴史を持つ
若狭地方最大の秋祭り

令和5年
9月16日(土)・17日(日)



見処

全演し物が集結

17日13時より

小浜市まちの駅付近

※天候、その他の理由により、予定を変更する場合があります。

詳細はこちらをご覧ください。



お問い合わせ
●若狭おばま観光案内所 TEL080-6360-6192 <https://www.wakasa-obama.jp>
●福井県小浜市産業部文化観光課 TEL0770-53-1111 代 <http://www1.city.obama.fukui.jp>

今年の出番区

- 山車: 浅間区、清滝区、今宮区、酒井区、飛鳥区
- 大太鼓: 住吉区、広峰区
- 神楽: 神田区、白鳥区、白鬚区
- 獅子: 日吉区、玉前区

山車や大太鼓、神楽、獅子の4種類の演し物が町中を巡る
380有余年の歴史を持つ若狭地方最大の秋祭り

放生祭とは

八幡神社の例祭で、古くは放生会(殺生を戒め、捕らえられた魚や鳥を池や山野に放つ儀式)が行われていたので「放生祭」の名で親しまれています。
神輿や大太鼓・神楽・獅子・山車などの演し物が、2日間にわたり旧小浜町内を巡行し、芸や囃子を披露します。これらの演し物は江戸時代に小浜城下の町人居住区であった24区が担当し、隔年で12区ずつが出ています。
中には、江戸時代の祇園祭礼の頃から300年以上の歴史を持つものもあります。ひとつの祭りに4種の演し物が出る、全国的にも珍しいお祭りです。

神輿 香取区



放生祭に出る唯一の神輿で、2年に1度、八幡神社のご神体を奉載して氏子各区を巡る。もともと八幡神社にあったものを香取区が譲り受け、巨額を投じて修理をした。

大太鼓 広峰区・住吉区・大宮区 鈴鹿区・大原区



直径90cmほどの大きな太鼓と5~7個の鉦による大音響の囃子に合わせて二人一組または、三人一組の棒振りが勇壮に立ち回る。また、子供や青年が披露する大太鼓の曲打ちも見処。
最も歴史の古い住吉区の大太鼓は先頭に傘鉦(笠鉦)が行く。傘鉦と棒振り・囃子が一団で動いていく姿は、京都祇園祭に出る綾傘鉦や四条傘鉦に似ている。

山車 清滝区・今宮区・竜田区 飛鳥区・塩電区・生玉区 酒井区・貴船区・浅間区



飛鳥区の舞台型山車を除き、すべて屋根付二階造り、一階前部に出囃子を張り出す。十数曲から二十数曲の囃子を持ち、一階には大太鼓・小太鼓、二階には笛の囃子方が乗り込み道行きする。神社や各区の本陣前では、出囃子で子供二人が小太鼓を打つ。
江戸時代、祇園祭礼の頃の山車は「布袋山」「大黒山」「行者山」など人形を飾った山車であった。

神楽 神田区・白鳥区・津島区 鹿島区・白鬚区



神楽の本屋台には囃子頭が載るが、囃子舞いはなく、優雅で繊細な音律の神楽囃子を聞かせる。本屋台の大小二つの太鼓と笛の囃子で道行きし、神社や各区の本陣では、前屋台の二つの小太鼓と笛の囃子を奉納する。
江戸時代の祇園祭礼の頃から中西町(現 鹿島区)の「神楽太鼓」として出ており、他の四区も鹿島区から伝習したといわれている。

獅子 玉前区・日吉区 多賀区・男山区



老若二匹の雄獅子と一匹の雌獅子が、笛と歌に合わせて、胸につけた締太鼓を打ちながら舞う。この三匹獅子舞は、藩主酒井忠勝が旧領地の武州川越から演者を連れてきたもので、江戸時代の祇園祭礼には武家「関東組」の人々によって演じられていた。
明治維新後、一番町(雲浜獅子)と、この放生祭に奉納する四区が習い伝え、伝統を守っている。